



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
インターネットでも
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

市民運動がまもった

高萩協同病院 共産党市議団が視察

10月18日に日本共産党市議団は、高萩、日立などの党市議と合同で今年4月に移転・新築された「県北医療センター高萩協同病院」を視察しました。

同病院は移転を機に、ベッド数を以前の182床から220床に増床しました。脳外科等も充実させ、診療科目は13科を擁し、医

師は27名(13名は非常勤)です。建設費は54億円で、設備機器などを含めると総額は60数億円となります。

新病院になってからの患者数は外来で1日平均300〜400名で前年対比で約20%増加しています。いつぼう入院患者数は1日あたり約90名で、ほぼ前年と同じ。病床利用率は50%

を割って依然きびしい現状です。患者の地域割合は高萩市が約6割、北茨城市が約3割、旧十王町が約1割とのことです。

北茨城市立病院が脳外科や腎臓透析治療を縮小している影響もあり、この治療での北茨城市からの患者も少なくなるとのことです。同病院に入院したある市民は「各病室にトイレがあり、室内はホテルのようだった」と、明るさや便利さに感心していました。

新しく導入されたCTスキャンは県内一の性能といわれ、従来の機械が1枚撮影するところを瞬時に60枚枚撮影できる能力があります。技術革新が、身体的にも経済的にも患者負担を軽減しています。

来年4月には「産科を再開させ、高萩市内でもお産ができるようにしたい」とのこと。医師や看護師など

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462



北茨城、高萩、日立、常陸太田の日本共産党市議会議員

の確保については、厚生連という組織はあっても、院長みずから動かなければならないきびしさは他の病院と変わりません。

かつての病院のイメージを一新させる、すばらしい施設環境でした。働く職員の要望を入れた設計というばかりでなく、透析治療の拡充など医療内容についても、市民が職員と一緒に運動で守った病院としての側面も感じることができました。北茨城市立総合病院の新築にさいしても「市民に開かれた病院の建設を」との思いを強くしました。

女性市議5名で 小学校と学童クラブを視察

北茨城の女性市議5人で、小学校と学童クラブを視察しました。議会でも質問してきましたが、小学校区ごとの学童クラブが実現できないかということが先の女性連盟との懇談会でも改めて課題とされました。今回は、市内南部を中心に7つの小学校と4つの学童クラブを訪ねました。

小学校では児童数が減り、教室が空くばあいもあります。多目的なスペースや特別室として、またそ

れまで不自由していた会議室やPTA活動の拠点として使われている事例が少なくありませんでした。各学童クラブは、施設拡充に取り組んだり、送迎にも便宜をはかり、子どもたちのために努力しているようすがうかがえました。

安全・安心で、生き生きとした放課後の生活をどう保障していくのか、いっその調査・研究が必要な課題との思いを強くもった視察でした。

ご近所声かけ隊

地域の安心の目になろうと、社会福祉協議会が地域支部を単位に組織づくりをすすめています。現在、7ヶ所で千名を越える方が登録されています。

「気張らず、無理せず、息長く」やっつけていこうというのが活動のスタイルです。子どもたちには見守ってくれる大人たちがいる、そしてお年寄りには手助けしてくれるご近所さんがいる、そんなまちをめざす取り組みです。

毎秒3.9トン



大北川の上流にある石岡第一発電所が、今年、国の登録有形文化財に指定されました。ダムを持たない自流式と呼ばれる環境にやさしい水力発電所です。

写真は、発電に使われて役目を終え、大北川に戻る水の排出口。毎秒4トンちかくの水が、約160mの落差を利用して、4800kWの電力をつくります。



「ご近所声かけ隊」明德支部の発会式
(10月14日、明德小多目的ホールで)